

令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 合馬 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動と一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定的一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は単学級ですので、個人が特定されることがないように、公表の方法について配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
本市	15.98	19.39	34.42	40.27	49.36	9.54	150.13	21.81	53.10

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92
本市	15.88	18.39	38.51	38.13	38.67	9.79	142.58	13.44	54.32

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
本校では、体育の授業が好きな児童が90%以上である。運動習慣の有無にかかわらず、体育の学習において、児童は楽しみながら、体を動かしていることが分かる。また、生活習慣に関しては、全員が「朝食を毎日食べる」と回答し、睡眠時間が「8時間以上」と回答している児童が90%以上となっている。ほとんどの児童が基本的な生活習慣が定着している。今後も保健体育科の学習や、家庭科の学習を通じて、睡眠や食生活の大切さを伝えていきたい。テレビやスマートフォンの視聴時間についての質問は、ばらつきが多く、児童への指導だけでなく、保護者の啓発も進めていく必要がある。全員の児童が肯定的な回答になるよう、工夫した授業づくりをしていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科（授業）に関する取組（全校で・学年で・学級で）

・体育の授業前に体力向上を図り、運動場を走る時間を設けたり、授業に必要な動きを準備運動で取り入れたりして、怪我なく効果的に授業が進められるように工夫している。 ・児童同士で交流しながら、学習のめあての達成を図るために、振り返りシートを作成し、本時でできるようになったこと、反省などを記録した。振り返りシートを生かして次時の学習への意欲を高め、児童が次時のめあてをもって、学習に臨めるようにしている。
--

② 運動習慣等に関する取組（1校1取組）

本校では毎年1月にマラソン大会を行っている。マラソン大会に向け児童のモチベーションを高めるとともに、運動習慣の定着を目指し、中休みに「ランランタイム」の取り組みを行った。全体の目標を400kmと設定し、児童の走る距離や人数をもとに児童の走る距離を考えた。児童全員の走った距離を合算し、走ることが得意な児童も苦手な児童も一緒になって、全員で目標の達成を目指すことが出来るようにした。また、達成度を棒グラフに示し見える化を行い、モチベーションを高めていった。 この取組を通して、ただ中休みに走るのではなく全員が目標達成に向けて走ること、友達同士で声を掛け合う姿や、棒グラフを気にかける姿が多く見られ、前向きな気持ちでマラソン大会に備えることができた。保護者にマラソン大会観戦の案内を行ったり、報道機関への情報提供をしたりすることで本取組の周知を行った。
